

支援センター名	上平地域子ども元気活動支援センター
所在地	〒939-1961 富山県南砺市皆葎318 五箇山山村開発センター
連絡先	Tel 0763-67-3650 Fax 0763-67-3924

事業の概要とポイント

小学校から、「総合的な学習の時間」の一環として、五箇山民謡を児童に伝承し、受け継ぐ機会としたいと相談を受け、コーディネーターが地域にある民謡クラブや保存会に相談した。学校と地域が連携し、子どもたちが地域の伝統文化を継承したり、地域の人々に学んだりする機会を設けることにより、学校教育の幅を広げるとともに、地域の教育力のさらなる向上につながり、成果を上げることができた。

関係した学校・団体等の名称

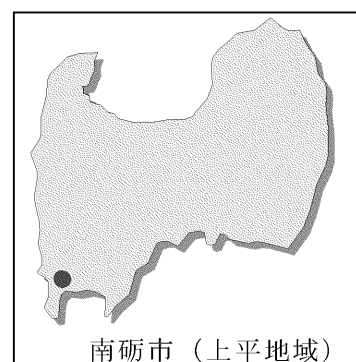
上平小学校、上平民謡クラブ、越中五箇山民謡保存会

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 南砺市上平地域 830人

南砺市上平地域は、庄川の上流、富山県の最南端に位置し、南は岐阜県白川村に接している自然美に恵まれた地域である。

平成7年12月、上平地域の「菅沼合掌造り集落」が、相倉集落、白川村荻町集落とともに、ユネスコの世界文化遺産に登録され、観光地として有名である。経済的には、農林業が基盤であるが、耕地面積は少ない。近年は特産物である赤かぶの生産が増加している。林業についても、中山間地域総合整備事業等により、基盤整備や生活改善に取り組んでいる。



平成12年には東海北陸自動車道・五箇山ICが開通し、世界遺産のほか、国の重要文化財「岩瀬家」、桂湖周辺の野外活動施設（ボート場、釣り、オートキャンプ場）、唄と憩いのひろば「民謡の里」など、近年は豊かな自然を生かした観光開発も進めている。

五箇山は民謡の宝庫である。哀調を帯びた旋律は、平家の落人伝説に由来するためといわれる。長い歳月にわたり外界を隔ててきた山里では、そんな民謡に心の慰めを求めて今日に唄い継いできた。上平地域において民謡は、ただの伝統芸能でなく、時を超えて里人の絆と

なっている。

家庭・学校・地域・行政が連携し、21世紀の子どもづくりのための活動を積極的に推進している地域である。

企画から活動までの経緯

平成16年4月10日 上平小学校長から「総合的な学習の時間」の一環として「子ども民謡教室」についての相談を受けた。

4月12日 地域の「上平民謡クラブ」、「越中五箇山民謡保存会」に、民謡教室を受け持ってくれないかを相談した。

4月15日 実施日程や段取りについて、支援センターにて、コーディネーターとともに上平小学校の担当教諭と「上平民謡クラブ」、「越中五箇山民謡保存会」とで話し合いをもち、民謡教室の日取り及び指導内容等を決めた。

4月20日 実施場所となる上平小学校で実施方法の打ち合わせを行うとともに、準備物等について、上平小学校教職員と打ち合わせを行った。

5月 1日 学校で児童に支援センターで作ったチラシを配付して、参加者を募った。

5月14日、21日、28日、6月4日、11日、18日、25日、7月2日、9日、14日の全10回 上平小学校で「子ども民謡教室」を実施し、児童の参加者は26名であった。実施に当たっては、教員4名、「上平民謡クラブ」2名、「越中五箇山民謡保存会」1名、コーディネーターが参加した。

事例の展開内容（特色など）

上平小学校から、地域の特色について「総合的な学習の時間」に学習したが、児童がさらに、五箇山民謡に関心をもち、そのことを学習したいという声が高まってきた。しかし、学校だけでは指導できないので、地域の優れた方々の協力を得たいという相談が支援センターに入ってきた。そこで、コーディネーターが地元の民謡クラブや民謡保存会に協力を依頼し、「子ども民謡教室」の開催となった。

5月～7月の毎週1回、6限目（1～3年生は放課後）の時間を活用し、子どもたちに地域の指導者が五箇山民謡（麦屋節、といちんさ等）を指導した。（全10回）

開催日は、上平小学校の児童が26人集まり、民謡をよく知っておられる地域の方が、常時数名ずつ指導にあたり、目の行き届いた教室が展開された。指導者のおかげで、児童は意欲的に活動を行い、大盛況だった。小学校の教職員の方からも、子どもたちにとって貴重な体験となったと絶賛された。

【子どもの感想】

- ・ 民謡教室で五箇山のいろいろな民謡や踊りを教えてもらってうれしかった。
- ・ 五箇山民謡の踊りができるようになってよかった。
- ・ 「麦屋節」、「といちんさ」以外の踊りも踊れるようになりたい。

【指導者の感想】

- ・ 教室の回数を重ねるごとに、子どもたちの眼の輝きが増してきたように感じ、非常にうれしかったし、やりがいが増してきた。
- ・ 子どもたちだけでなく、父兄の方からもお礼を言われ、指導してよかった。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

コーディネーターが小学校でどのような「総合的な学習の時間」を行っているか、年間計画や趣旨を理解し、学校側の課題等がどのようなところにあるのかを把握しておく必要がある。また、活動の実施に向けて生じる様々な問題点を解決するために、小学校と民謡保存会の双方で話し合いの場を設ける必要がある。さらに、開催ごとに反省点を出し合い、よりよい活動が展開できるよう連絡を密にしていかなければならない。

子どもたちの体験学習ということもあって、平日開催だったため、指導者の方々に無理をいって時間の都合をつけていただいた。仕事の合間に実施していただき、非常に感謝している。今後、活動を継続していく上でも、日程や経費、準備物など、細かな部分の計画について、学校側と指導者側との折衝を支援センターの方で進めていく必要がある。

評 価

小学校で「総合的な学習の時間」に実施している学習活動は、児童の学習の進み具合や考えの深まりなどによって、いろいろと変更が生じてくる。その際に地域の方々の協力が必要な場合、地域の事情に詳しいコーディネーターの仲介によって、子どもたちの活動の場を設定することで、小学校・地域団体の双方に有効な活動を創出できたと考える。

練習の成果を地域のケーブルテレビで放映することによって、小学校での「総合的な学習の時間」の取り組みや地域団体の活動の様子が紹介され、双方の活動の活性化につながっていた。

また、小学校においては、運動会や学習発表会で五箇山民謡を披露することで、子どもたちも目的意識をもって取り組み、積極的な活動となった。子どもたちも、学校の先生でない地域の方々にいろいろ教えてもらうということで、新鮮でとても生き生きとしていた。

今後も、支援センターを通じて、「子ども民謡教室」は継続していきたい。小学校からも継続の意向が強く、17年度も実施することが決まっている。

支援センターの紹介による体験学習により、子どもたちは地域の伝統芸能に対する理解を深めることができたと考える。また、指導に当たって「上平民謡クラブ」、「越中五箇山民謡保存会」の会員も、子どもたちと触れ合ったことが新鮮な刺激となり、地域団体自体の意識の向上につながった。指導者の温かい気持ちと子どもたちのやる気とがとてもいい教室をつくりあげた。

今後、子どもたちの希望も取り入れながら、学校側と指導者側がよりよい活動になるよう支援していきたい。

活動風景



執筆者職・氏名： 南砺市教育委員会 五箇山山村開発センター 打越富美夫